

# 輝かがやき

第3号  
発行 平成16年4月1日  
茨城県立図書館ボランティア協議会  
広報委員会  
文責 黒沢 英宣

目次

茨城県立図書館ボランティアへの期待 ～ボランティア研修会開催～  
平成15年度見学会に参加して  
図書館ボランティアの現場探訪記 ～それぞれの活動の様子取材しました～  
イベント・外国語資料サービス  
目で見えるボランティア仲間たち(2003年度)  
ボランティアの声

## 茨城県立図書館ボランティアへの期待

### － ボランティア研修会開催 －

2月21日(土)茨城県立図書館ボランティアへの研修会が行われました。

中川ボランティア連絡協議会会長のあいさつの後、武子館長が上記の演題で講演されました。



今や来館者は1日平均3200余名、平成15年度の1日平均貸出し3008点で、これは全国7位になるそ

うです。旧館時代に比べて劇的な変化をとげました。

特に子供の本は全国3～4位にランクされます。館の職員だけでは対応しきれない現状で、ボランティアの協力は不可欠になっています。子供への読み聞かせ、対面朗読、図書修理、資料配架などボランティアに負うところは大きなものがあります。

児童への読み聞かせの場では、対象児童の減少をおさえるために時間帯の変更を実施したところ改善につながりました。これはボランティアの鋭敏な現状認識によるもので、このような実践からの提案を期待したいとのことでした。

これらの活動が評価されて、宮崎県、沖縄県からの視察の要望も来ているそうです。

引き続き、県立図書館の沿革(100周年記念ビデオ)、館内各課の業務説明が責任者からあり、質疑応答の後、閉会しました。

(寺門 宏・金澤 鈴枝)

## 平成15年度見学会に参加して

3月11日(木)、今年度の見学会として牛久市立中央図書館と筑波大学附属中央図書館を見学しました。参加者は、県立図書館側5名、ボランティア18名の計23名でした。

行きのバスの中では、各自自己紹介をしいました。昨年よりも固さが取れて、なごやかさが増していました。

牛久市立中央図書館はNPOが有償ボランティアとして図書館運営に深く携わっているのが全国的に珍しい。これは前市長が「NPOを活用した手法により図書館運営のサービス向上」を政策的に推進した結果です。

有償ボランティア45名のほかに無償ボランティアも約70名いらっしゃいます。無償ボランティアは、読み

聞かせ、図書修理、録音テープ作成などで活躍されています。特に読み聞かせを目的に来る子供が常時20～40名も集まるのが特徴で、ゼロ歳児向けの読み聞かせコースが今月からスタートするそうです。

NPOは輪番制で夜9時まで受付業務を担当し、牛久市民からは、「図書館にボランティアが来て、雰囲気明るくなった。」と好評のようです。



牛久市立中央図書館を後にして、筑波大学に移動しました。まず大学食堂で各自昼食をとりました。久しぶりの学食を懐かしみながら、会員間の交流を深めました。

午後1時半から、大学とボランティアの説明を聞いた後、館内を見学しました。図書館は5階建てで、蔵書数も県立図書館の2倍以上の180万冊と非常に多く、大学図書館だけあって格調高さも感じられました。特に定期購読している各国の雑誌が8000冊と多いのに驚かされます。

ボランティアは47名ですが、全員が図書館に対する深い知識をベースに、活動する曜日を決めて活発に活動しています。ボランティア総会を毎月1回行い、また職員との交流を懇談会、交流会を通じて深めています。

ボランティアの活動分野は、県立図書館のそれと比べて、図書館総合案内、見学案内があるのが特徴です。私たちが案内したのも、ボランティアの方でした。館内見学の後、3つのグループに分かれて、テーマごとにボランティア間で情報を交換しあいました。

今回、NPOを活用している図書館と大学図書館という、それぞれ特色のある図書館を見学したのは、私たちの今後の活動に何らかの形で役立つものと思われます。

(市川 紀明)



## 図書館ボランティアの現場訪記

### イベント —楽しく気持ちをこめて—

2月7日(土)の県立図書館、午前10時から主催事業の「囲碁将棋教室」が開かれようとしています。2人のイベントボランティアが入口の受付で忙しく対応しています。参加者の氏名の確認、名簿のチェック、資料の手渡し、アンケート用紙の配布と回収、筆記用具や記名章の手渡しなど、次から次へ来場する参

加者への対応に追われていました。

参加者は小学校1年生から高齢者まで48人、会場は文字通り3世代ふれあいの場となり、なごやかな対局が見受けられました。和気あいあいの雰囲気のうちに無事終了しました。

終了後、出口にいるボランティアにも「ありがとうご

ざいました。」とみんなが声をかけて行かれました。ボランティアにとって最もうれしい瞬間です。



職員や指導員の方々と後片づけをして、この日の作業は終了しました。

イベントボランティアは、このように図書館が主催または共催する催し物の当日準備、受付、出演者や観客の誘導案内、後片づけなどをお手伝いする活動をしています。ボランティアの皆さんはこのような活動を通して主催者側としてのやりがいを感じたり、観客や参加者と直接ふれあうことによって、うれしい思いをすることも多々あると言っておられました。

イベントボランティアは現在 33 人で、平成 15 年度においては、主催事業 67 本に対し、延べ 80 人が活動されてきました。催し物への参加は、個人の選択でよく、活動自体が 1 回完結で宿題を残さないという気楽さと、観客や参加者と共にイベントを楽しめるという利点もあって、イベントボランティアを希望される方々は、これからますます増えるのではないかと思います。

(黒沢英宣)

## 外国語資料サービス - タレント集団の活動 -

**活**動の目的は、外国語の図書、資料を原語で読みたい方、在住外国人来館者へそれらの内容の正確なデータを提供するための作業をしているとのことです。インターネット検索をも可能としています。すなわち、必要な外国図書・資料のデータを作成し、速やかに提供できるよう資料整理に協力するとのことです。

具体的な内容は、外国語書物、専門資料書の言語別ならびに種類別の分類、書名、邦訳の有無、専門資料の概要紹介、それぞれの内容についてのデータ作成、言語コードを付けることなどです。

より具体的には、小説、随筆などは書物の目次、前書、後書を読んで、内容の概略を記録します。また邦訳書があるかないかも、調査し記録します。専門書は内容がわかるようなデータを作成します。今までの活動としては、図書館地下の書庫に埋没していた、これまで寄贈された 500 冊



ほどの寄贈書をどうしたら活かすことができるかという課題に、平成 14 年度から取り組みだし、その眠っていた書物に加え、新しく購入した書物、資料をあわせ、当初 1 年間で 749 冊を整理したとのことです。15 年度は 2 月末までに一般書 96 冊、児童書 216 冊のデータを作成したそうです。今後とも速やかに入荷書誌を整理し、多くの方々に利用していただくよう努力したいとのことでした。

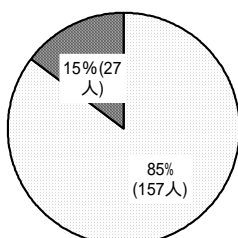
現在の活動メンバーには、去年の年度スタートではエントリーが 14 人ありました。現在実働は男性 2 人、女性 1 人の 3 人となっています。願わくは常時実働メンバーが 7 人あればと思います。得意とする言語はまことに幅広いものですから、多岐にわたるタレント集団ですが、実質的に活動する方が少ないのが悩みだそうです。

(上条 哲)

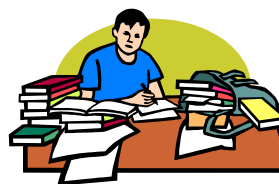
## 目で見るボランティア仲間たち(2003 年度)

県立図書館に集うボランティア仲間達。どんな人がどんなところに住みどんな活動を行っているのでしょうか。184 人の仲間達の現状をグラフにしてみました。

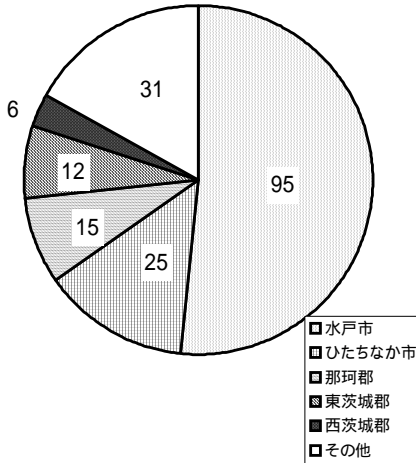
男女の割合は？



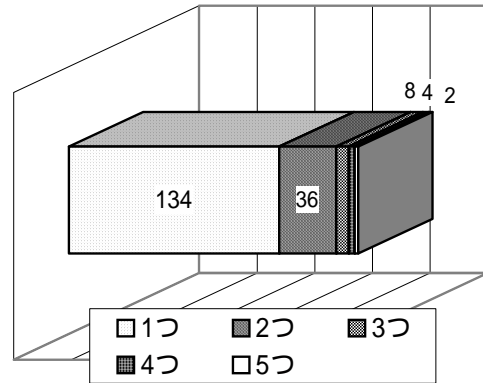
□ 女性  
■ 男性



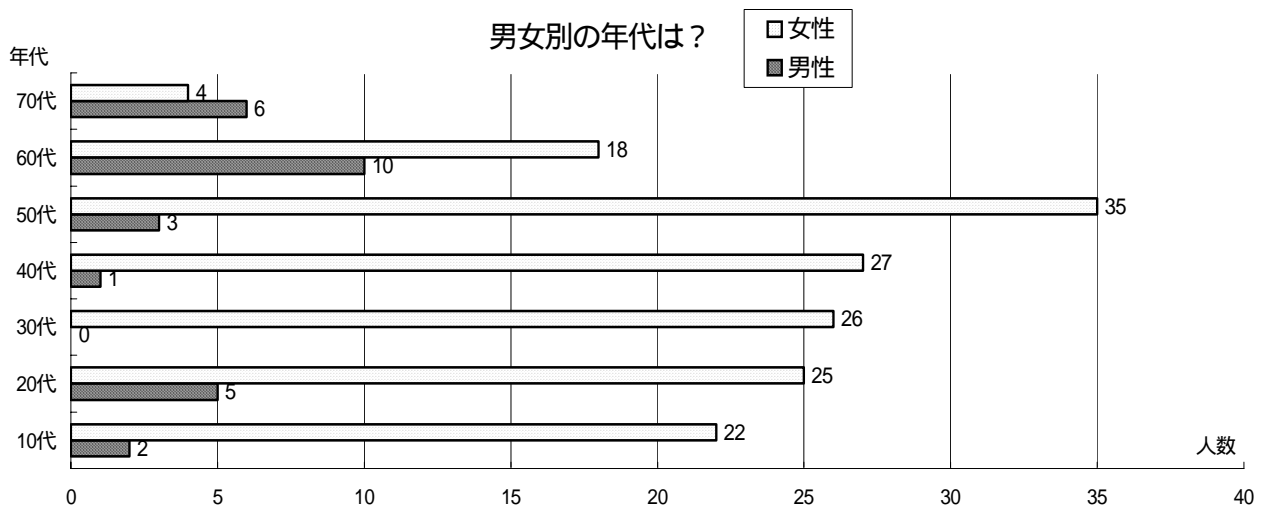
お住まいは？



いくつ活動していますか？



男女別の年代は？



## ボランティアの声

1. 書棚がきつくて配架できない場所があります。一方、空いている棚がありますので、調整できればと思います。
2. 閲覧室の書架の天井から、大きな案内板をつるせば見やすいと思います。
3. 階段の上り口に大きな案内板で、「自然科学は昇って左」「文学芸術は右」とあればいいと思います。
4. 利用者用にテーブルが欲しい。立ち読みできるカウンター式でもいいと思います。

回答はボランティア室に掲示していますので、ご覧ください。

## 編集後記

2月21日に行われたボランティア研修会で武子館長から「茨城県立図書館のボランティア活動が全国でも注目されている。」とのお話がありました。これは、外交辞令の分を差し引いても、私たちを勇気づける言葉です。私たちは実践者としての誇りを持って、新年度は活動を一層向上させたいと思います。

新年度も各自のペースで努力しましょう。

